

ロタリックス と ロタテック

ロタウイルスワクチンは異なるメーカーから2種類発売されています。それぞれに特徴がありますが、臨床的な実際の効果については厚生労働省の検討では今のところ両者に差が無いと考えられています。

1価のワクチンでも流行する5つの型に対する免疫が出来ます。
2回接種のほうが早く免疫が完了することと、腸重積症をおこしやすい時期を避けられるメリットがあります。

ワクチン	ロタリックス	ロタテック
製造メーカー	GSK	MSD
国際誕生	2004年7月	2005年11月
国内販売開始	2011年11月	2012年1月
価数	1価	5価
予防できる ロタワクチンの型	G1P[8]、G2P[4]、G3P[8]、 G4P[8]、G9P[8]	G1P[8]、G2P[4]、G3P[8]、 G4P[8]、G9P[8]
接種量・回数	1.5ml 2回	2.0ml 3回
防御の仕組み	ヒトロタウイルス由来なので、自然免疫と同じように別の型のロタウイルス株に対しても効果を発揮する(交叉免疫)	5つの型それぞれに対して合成されたウイルス株を混合したものの多価ワクチンの場合1回にいくつかの型しか免疫はつかないので3回接種が必要
接種期間	生後6週～24週 初回は14週6日まで	生後6週～32週 初回は14週6日まで
性状	とろりとしていて甘い	さらさらしていて甘い
製法の概要	G1P[8]に属するヒトロタウイルス(89-12株)のクローンである弱毒生ヒトロタウイルス(RIX4414株)を培養増殖させたウイルス液を精製し、添加剤を加えた内用液剤である	ヒト及びウシロタウイルスの親株から生成されたヒト-ウシロタウイルス再集合体である弱毒生ロタウイルス株(WI79-9株、SC2-9株、WI78-8株、BrB-9株、WI79-4株)を、個別に培養して製造した単価ワクチン原液を希釈混合し、5価ワクチンとして調製した液剤である
組成	弱毒生ヒトロタウイルス(RIX4414株)	G1型ロタウイルス(WI79-9株) G2型ロタウイルス(SC2-9株) G3型ロタウイルス(WI78-8株) G4型ロタウイルス(BrB-9株) P1A[8]型ロタウイルス(WI79-4株)
飲んだ後吐いてしまった場合	腸管の中で増殖するので全量飲めなくても効果が期待できる	
接種後の腸重積症	接種後の腸重積症発生の報告(接種後7日以内の発生率が高い可能性)はあるが、ワクチンを接種していない群に比べて特にリスクが高いとは言えない	

おうみこどもクリニック